Technical Information

VDS/ASTMAC R7 移行ガイド

TI 34P02V06-01

はじめに

■ 本書について

本書は、STARDOM HMI/SCADA ソフトウェア ASTMAC VDS および ASTMAC（以下、VDS/ASTMAC）のリリース 6（以下、R6）もしくはリリース 5（以下、R5）から、リリース 7（以下、R7）へリリースアップを行う際、事前に考慮すべきことを解説したものです。
R7 では Windows OS、開発環境を変更しています。一部のオプションパッケージには、サポートに制限が生じ、代替手段が必要な場合があります。
リリースアップ方針の選択、リリースアップ作業に必要な準備、工数の見積もりなどにご活用ください。

商標

■ 商標ならびにライセンスソフトウェアについて

・ STARDOM は、横河電機株式会社の商標です。
・ その他、本文中に使われている会社名・商品名は、各社の登録商標または商標です。
・ 本文中の各社の登録商標または商標には、TM、®マークは表示しておりません。

VDS/ASTMAC
R7 移行ガイド

TI 34P02V06-01　4 版

目次

1.　概要

本書は、ASTMAC VDS および ASTMAC（以下、VDS/ASTMAC）のリリース 6（以下、R6）もしくはリリース 5（以下、R5）から、リリース 7（以下、R7）へリリースアップを行う際に、事前に考慮すべきことを解説した移行ガイドです。R7 では Windows OS、開発環境を変更しています。一部のオプションパッケージには、機能サポートに制限が生じ、代替手段が必要な場合があります。リリースアップ方針の選択、リリースアップ作業に必要な準備、工数の見積もりなどにご活用ください。

なお、実際にリリースアップを行う際は、取扱説明書「VDS/ASTMAC リリースアップキット R7」（IM 34P02V06-01）に従って作業を実施してください。

■ R7 の特長

● VDS

・VDS Viewer による操作監視画面表示
　横河電機製 Java アプリケーション版ビューア 「VDS Viewer」を使用するので Internet Explorer が不要です。
・トレンドプリミティブに特大サイズを追加

● VDS/ASTMAC 共通

・Windows7 (64bit を含む) に対応
・電子署名対応
・ライセンス管理特注表示対応
・データサーバの FA-M3V (CPU 型番：F3SP71/F3SP76) および WideField3 対応
・FA-M3 計装パッケージ (NT501AJ) 機能強化
　- デジタル指示調節計 UTAdvanced 対応
　- WideField3 対応
　- 新計装 CPU モジュール対応
　- 新モジュールサポート (アナログ入力／アナログ出力)
・MELSEC 接続パッケージ (NT351AJ) MELSEC Q シリーズ最新機種に対応
・帳票パッケージ (NT301AJ/NT301RJ) Excel 2010/2013 に対応
・OPC データリンクパッケージ for.NET (NT336AJ) Visual Studio 2010/2013 に対応

補足

R7.30 以降は、Windows XP に対応しておりません。Windows XP でご利用の場合は、R7.20 にリリースアップしてください。

1.1 VDS/ASTMAC R7 動作環境（概要）

VDS および ASTMAC の動作環境（概要）は以下のとおりです。

■ VDS の動作環境

表　VDS データサーバ／HMI サーバの動作環境

項目	内容
OS (*1)(*6)	Windows 7 Professional SP1 (32bit/64bit) (*2)(*3)(*4)
CPU	Windows 7 (32bit)：1GHz 以上の 32bit(x86)プロセッサまたは 64bit(x64)プロセッサ
	Windows 7 (64bit)：1GHz 以上の 64bit(x64)プロセッサ
メモリ	2GB 以上
ハードディスク	空き領域 20GB 以上
Java 実行環境	Java Runtime Environment 8.0 Update 31 (*5)

注：　動作環境の詳細は、「ASTMAC VDS」（GS 34P02A02-01）を参照してください。
*1：　同一システム内の各 VDS、HMI クライアントの OS およびサービスパックレベルは統一する必要があります。
*2：　Windows 7 では動作しないオプションソフトウェアがあります。詳細は、「1.2　旧リリース（R6、R5）との差分概要」を参照してください。
*3：　Windows 7 の Aero スタイル、ユーザーアカウント制御（UAC）および Windows Defender を無効にする必要があります。
*4：　インターネットオプションの Smart Screen フィルタを無効にする必要があります。
*5：　製品に同梱品を使用してください。
*6：　セキュリティ更新プログラムの適用に関する情報を次のホームページでご確認ください。
http://www.yokogawa.co.jp/stardom/sta.htm より、「STARDOM テクニカルアシスト」ホームページへログインし、［Menu］→［技術情報］を参照してください。

表　VDS HMI クライアントの動作環境

項目	内容
OS (*1)(*5)	Windows 7 Professional SP1 (32bit/64bit) (*2)(*3)
CPU	Windows 7 (32bit)：1GHz 以上の 32bit(x86)プロセッサまたは 64bit(x64)プロセッサ
	Windows 7 (64bit)：1GHz 以上の 64bit(x64)プロセッサ
メモリ	2GB 以上
ハードディスク	空き領域 20GB 以上
Java 実行環境	Java Runtime Environment 8.0 Update31 (*4)

注：　動作環境の詳細は、「ASTMAC VDS」（GS34P02A02-01）を参照してください。
*1：　同一システム内の各 ASTMAC VDS、HMI クライアントの OS およびサービスパックレベルは統一する必要があります。
*2：　Windows 7 の Aero スタイル、ユーザーアカウント制御（UAC）および Windows Defender を無効にする必要があります。
*3：　インターネットオプションの Smart Screen フィルタを無効にする必要があります。
*4：　製品に同梱品を使用してください。
*5：　セキュリティ更新プログラムの適用に関する情報を次のホームページでご確認ください。
http://www.yokogawa.co.jp/stardom/sta.htm より、「STARDOM テクニカルアシスト」ホームページへログインし、［Menu］→［技術情報］を参照してください。

■ ASTMAC の動作環境

表　ASTMAC の動作環境

項目	内容
OS (*1)(*5)	Windows 7 Professional SP1 (32bit/64bit) (*2)(*3)
CPU (*4)	Windows 7 (32bit)：1GHz 以上の 32bit(x86)プロセッサまたは 64bit(x64)プロセッサ
	Windows 7 (64bit)：1GHz 以上の 64bit(x64)プロセッサ
メモリ	2GB 以上
ハードディスク	空き領域 20GB 以上

注：　ASTMAC は、2013 年 3 月 15 日に受注停止です。新規の購入はできません。
*1：　同一システム内の各マスタステーション、クライアントステーションの OS およびサービスパックレベルは統一する必要があります。
*2：　Windows 7 では、動作しないオプションソフトウェアがあります。詳細は、「1.2　旧リリース（R6、R5）との差分概要」を参照してください。
*3：　Windows 7 の Aero スタイル、ユーザーアカウント制御（UAC）および Windows Defender を無効にする必要があります。
*4：　Web 監視パッケージ（NT510AJ）は、シングルプロセッシング環境でのみ動作します。（R7.01～R7.20 で動作）
*5：　セキュリティ更新プログラムの適用に関する情報を次のホームページでご確認ください。
http://www.yokogawa.co.jp/stardom/sta.htm より、「STARDOM テクニカルアシスト」ホームページへログインし、［Menu］→［技術情報］を参照してください。

補足

- eCUBE 現場監視パッケージ（NT8852J）は VDS Viewer に対応しないため、R7 では動作しません。本パッケージを用いる場合は、VDS R6.30 を併せてご使用ください。
- R7 は、Windows Vista に対応していません。

1.2 旧リリース（R6、R5）との差分概要

VDS/ASTMAC 基本ソフトウェアおよびオプションソフトウェアの、R6/R5 と R7 の仕様差分を示します。R7.30 以降は、Windows XP に対応しておりません。
比較説明のため、Windows XP を記載しています。

表　仕様差分

対象パッケージ名称	R7 動作 OS		仕様差分	移行方法概要解説
	XP	7		
【基本ソフトウェア】				
VDS ASTMAC	○	○	動作環境（OS、Web ブラウザ）	1.1 章
			VB プロパティリンク機能（サポート終了）	2.2.3 章
			メッセージ管理のデータベース接続機能	2.2.9 章
			フェースプレート 3 の積算値の表示／非表示	−
【オプションソフトウェア】				
帳票パッケージ	○	○	対応 Excel のバージョン変更	2.2.1 章
トレンドパッケージ	◎	◎	なし	−
テスト機能パッケージ	◎	◎	なし	−
マルチタスク支援パッケージ	◎	◎	なし	−
GKit コントロール	◎	◎	なし	−
OPC データリンクパッケージ for .NET	○	○	サポート開発環境変更	2.2.2 章
カスタムドライバ接続パッケージ	◎	○	開発環境 OS 変更	2.2.4 章
OPC サーバ接続パッケージ	◎	◎	なし	−
FA-M3 計装パッケージ	◎	◎	なし	−
MELSEC 接続パッケージ	◎	◎	なし	−
SYSMAC 接続パッケージ	◎	◎	なし	−
DARWIN 接続パッケージ	◎	◎	なし	−
YEWMAC 接続パッケージ	◎	◎	なし	−
電力モニタ接続パッケージ	◎	×	現行機種接続：標準機能 旧機種接続　：代替方法なし	2.2.5 章
Pro-Server 接続パッケージ	◎	×	OPC 接続に変更	2.2.6 章
拡張セキュリティ機能パッケージ	◎	◎	なし	−
操作シールドパッケージ	◎	×	㈱富士通アドバンストエンジニアリング製 InfoBarrier（別売り）	2.2.7 章
Web 監視パッケージ	◎	×	VDS への移行	2.2.8 章

◎：　リリースアップ時に考慮すべき変更点なし
○：　動作環境仕様、サポート機能など、一部変更あり
×：　未サポート

R6/R5 から R7 へのリリースアップを行うにあたり、仕様差分のある機能やオプションソフトウェアを既設システムで使用している場合は、「2 必要なアイテムおよび作業概要」の該当部分を参照し、新規購入など準備が必要となるアイテムとリリースアップに伴う作業概要を確認いただき、費用および作業工数などの算出の参考としてください。

補足

R7.30 以降は、Windows XP に対応しておりません。Windows XP でご利用の場合は、R7.20 にリリースアップしてください。

1.3 VDS Viewerの概要と旧リリースとの差分

VDS R7 VDS Viewer の概要と R6 との機能比較について説明します。

■ VDS Viewer の概要

● VDS Viewer とは

- VDS Viewer は、横河電機製 Java アプリケーション（VDS HMI クライアント機能）です。
- Internet Explorer と同様に、クライアント PC に専用のアプリケーションソフトウェアをインストールすることなく、遠隔から操作監視画面を表示することができる、シンクライアントタイプのグラフィックソフトウェアです。
- VDS Viewer は、グラフィック表示機能、ウィンドウ制御機能を持った専用ウィンドウを提供して、ログオンウィンドウやオブジェクトビューウィンドウ等のウィンドウを表示します。

● VDS Viewer の特長

- ウィンドウの大きさや表示位置を指定できます。
- メインウィンドウを全画面表示、最背面または最前面に表示できます。
- 既存（R6 以前）のグラフィックファイルがそのまま使用できます。
- 豊富なレイアウトテンプレートを活用し、簡単な編集作業でフレーム表示が可能になります。
- VDS Viewer 終了時に自動的にログアウトし、セッションを終了します。

■ R7 と R6 の機能比較

横河電機製 Java アプリケーション版ビューア 「VDS Viewer」を使用する R7 とインターネットエクスプローラ（IE）を使用する R6 との差分を示します。

表　機能比較

項目	R7	R6
信頼性	IE を経由しないで画面表示するので、長期間操業でも安定動作。	Windows のセキュリティパッチ適用などに気を配る必要がある。
フレーム表示の作成	豊富なレイアウトテンプレートで簡単フレーム表示（若干の編集で作成可能）	HTML＋Java スクリプトを使用
ログアウト	VDS Viewer 終了時に自動的にログアウトし、セッションを終了。	手動でログアウト。
ウインドウの表示	全画面表示、最大化表示機能、最背面または最前面表示指定機能（*1）を標準化。 標準機能に組み込まれたので、専用ソフトのインストールが不要。 ウィンドウの大きさ指定、表示位置指定が可能。	操作シールドパッケージ（XP）または VDS Screen Control（Vista）を使用。

*1:　全画面表示、最大化表示機能は、メインウィンドウに対して有効です。最前面表示指定機能は、その他のウィンドウに対しても有効です。

2. 必要なアイテムおよび作業概要

本章では、リリースアップの際に新規購入など準備が必要となるアイテムと、リリースアップに伴う作業概要と作業フローについて説明します。

2.1 標準機能のリリースアップに必要なアイテムおよび作業概要とフロー

■ 必要なアイテム

既設のシステムに合わせて、以下よりリリースアップキットを選択します。
VDS/ASTMAC1 台ごとに 1 つ必要です。

表　VDS リリースアップキット

製品名	形名
VDS　フルタイム用 (R6→R7)	NT265AJ-LW01A
VDS　ランタイム用 (R6→R7)	NT265AJ-LW02A
VDS　フルタイム用 (R5→R7)	NT266AJ-LW01A
VDS　ランタイム用 (R5→R7)	NT266AJ-LW02A

表　ASTMAC リリースアップキット

製品名	形名
ASTMAC ベースタイプ SS　フルタイム用 （R6→R7）	NT267AJ-LW01A
ASTMAC ベースタイプ SS　ランタイム用 （R6→R7）	NT267AJ-LW02A
ASTMAC ベースタイプ S、M、L、LL　フルタイム用 (R6→R7)	NT267AJ-LW03A
ASTMAC ベースタイプ S、M、L、LL　ランタイム用 (R6→R7)	NT267AJ-LW04A
ASTMAC ビュークライアントタイプ用 (R6→R7)	NT267AJ-LW05A
ASTMAC ベースタイプ SS　フルタイム用 （R5→R7）	NT268AJ-LW01A
ASTMAC ベースタイプ SS　ランタイム用 （R5→R7）	NT268AJ-LW02A
ASTMAC ベースタイプ S、M、L、LL　フルタイム用 (R5→R7)	NT268AJ-LW03A
ASTMAC ベースタイプ S、M、L、LL　ランタイム用 (R5→R7)	NT268AJ-LW04A
ASTMAC ビュークライアントタイプ用 (R5→R7)	NT268AJ-LW05A

■ 作業概要

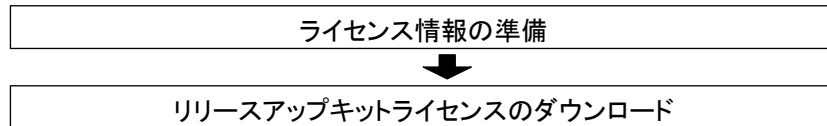
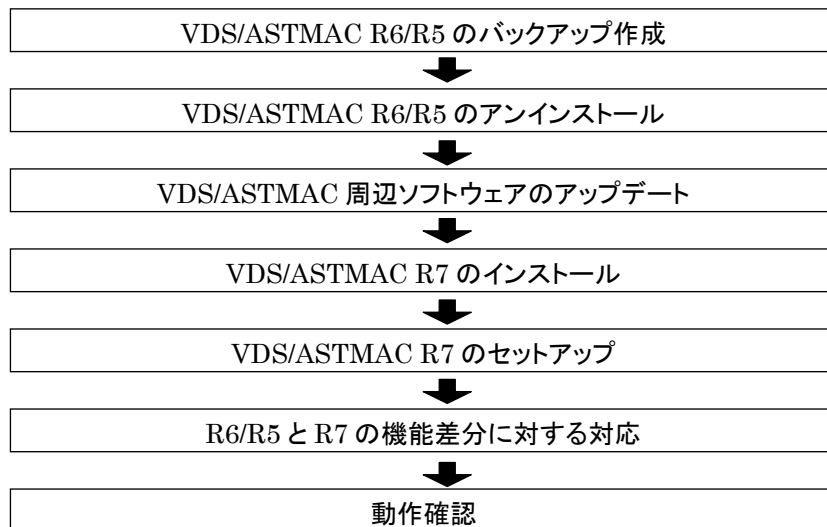
VDS/ASTMAC R6/R5 から R7 へリリースアップする手順の概要を説明します。

● リリースアップ手順のフロー

Step 1：リリースアップライセンスのダウンロード

ライセンス情報の準備

↓

リリースアップキットライセンスのダウンロード

Step 2：システムのリリースアップ

● 手順の説明

Step 1：リリースアップライセンスのダウンロード

1. ライセンス情報の準備
   現在使用中のライセンス情報（ID モジュール No.、オーダ ID シート）および、リリースアップキットのオーダ ID シートを用意します。
2. リリースアップキットライセンスのダウンロード
   ライセンス発行システム（*1）よりログインし、リリースアップキットライセンスをダウンロードします。

*1: 当社 Web サイト。URL はオーダ ID シートに記載。

Step 2：システムのリリースアップ

1. VDS/ASTMAC R6/R5 のバックアップ作成
   VDS/ASTMAC のコンフィギュレーション情報、各種ログ情報、ワークフォルダ、データフォルダ、HMI 情報ファイル（VDS の場合）のバックアップを作成します。

2. VDS/ASTMAC R6/R5 および Java Plug-in のアンインストール
   R7.30 以降にリリースアップすると、Windows 7 でのみ動作することになり、Windows 7 がインストールされた新規パソコンが必要です。したがって VDS/ASTMAC および Java Plug-in（VDS の場合）のアンインストールは不要です。
3. VDS/ASTMAC 周辺ソフトウェアのアップデート
   Windows や Excel、開発環境など、VDS/ASTMAC の周辺ソフトウェアをセットアップします。
4. VDS/ASTMAC R7 および JRE のインストール
   VDS/ASTMAC R7 ソフトウェア媒体を用いて、VDS/ASTMAC R7 および Java Runtime Environment (JRE）をインストールします。

補足

Windows 7 の 64bit 環境の場合、VDS/ASTMAC のデフォルトのインストールフォルダは、［C: ¥Program Files (x86) ¥YOKOGAWA¥VDS］になります。
「インストールフォルダ先のフォルダ」に[C: ¥Program Files¥YOKOGAWA¥VDS]と指定しても、VDS/ASTMAC のような 32bit アプリケーションは、Windows の機能により、［C: ¥Program Files (x86) ¥YOKOGAWA¥VDS］にインストールされます。

5. VDS/ASTMAC R7 のセットアップ
   「Step 1: リリースアップライセンスのダウンロード」で取得したライセンスファイルを ID モジュールに登録し、初期セットアップを実行します。バックアップ情報をすべて復元し、実行セットの再作成および実行セットへのファイルコピーを行います。

6. R6/R5 と R7 の機能差分に対する対応
   「2.2　使用オプションパッケージや各種機能に応じて必要となるアイテムおよび作業概要」を参考に、R6/R5 と R7 の機能差分項目に対して、移行作業を行います。
   R6 以前の HMI セットを R7 で使用する場合には、本書“付録　HMI セットのリリースアップ手順”を参照してください。
7. 動作確認
   R7 環境にて、動作確認を行います。

補足

VDS/ASTMAC R7 で VDS/ASTMAC R5.50 以前に作成されたワークスペースをはじめて使用する場合には、VDS/ASTMAC R7 フルタイム版のオブジェクトビルダによるワークスペースのエクスポートおよびインポートが必要です。
詳細については、リリースノートを参照してください。リリースノートは次の手順で表示できます。
スタートメニューから［すべてのプログラム］－［YOKOGAWA ASTMAC VDS］－［リリースノート］を選択します。

2.2 使用オプションパッケージや各種機能に応じて必要となるアイテムおよび作業概要

2.2.1 帳票パッケージ（NT301AJ／NT301RJ）を使用している場合

■ 必要なアイテム

VDS/ASTMAC R7 の帳票パッケージで使用する Microsoft Excel のバージョンは、以下のとおりです。
既設の Microsoft Excel のバージョンを確認し、必要に応じて新規に用意してください。

表　R7 における Microsoft Excel の対応バージョン

VDS/ASTMAC のリリースおよびレビジョン	Excel
R7.40	日本語 Excel 2013 SP1　32bit 版 日本語 Excel 2013　32bit 版 日本語 Excel 2010 SP2　32bit 版
R7.30	日本語 Excel 2013　32bit 版 日本語 Excel 2010 SP2　32bit 版
R7.10～R7.20	日本語 Excel 2010 SP1　32bit 版 日本語 Excel 2007 SP2
R7.01	日本語 Excel 2010　32bit 版 日本語 Excel 2007 SP2

R6 および R5 の各レビジョンにおける、対応 Excel は以下のとおりです。

表　R6、R5 における Microsoft Excel の対応バージョン

VDS/ASTMAC のリリースおよびレビジョン	Excel
R6.30	Excel 2007 SP1/SP2 Excel 2003 (XP のみ)
R6.01～R6.20	Excel 2007 SP1 Excel 2003 (XP のみ)
R5.50	Excel 2007 Excel 2003 Excel 2002 SP2 Excel 2000 SP3
R5.20～R5.40	Excel 2003 Excel 2002 SP2 Excel 2000 SP3
R5.01～R5.10	Excel 2002 SP2 Excel 2000 SP3

■ 作業概要

R6/R5 の帳票定義情報は、R7 でそのまま使用できます。

2.2.2 OPCデータリンクパッケージfor .NET（NT336AJ）を使用している場合

■ 必要なアイテム

VDS/ASTMAC R7 の OPC データリンクパッケージ for .NET を使用する開発／実行環境は、以下のとおりです。

表　R7 における開発環境

VDS/ASTMAC のリリースおよびレビジョン	開発環境
R7.30 ～R7.40	Visual Studio 2013 + .NET Framework 3.5 SP1 Visual Studio 2010 SP1 + .NET Framework 3.5 SP1
R7.20	Visual Studio 2012 + .NET Framework 3.5 SP1（Windows 7 のみ） Visual Studio 2010 SP1 + .NET Framework 3.5 SP1 Visual Studio 2008 SP1 + .NET Framework 3.5 SP1
R7.01～R7.10	Visual Studio 2010 SP1 + .NET Framework 3.5 Visual Studio 2010 ＋.NET Framework 3.5 Visual Studio 2008 SP1 + .NET Framework 3.5

表　R7 における実行環境

VDS/ASTMAC のリリースおよびレビジョン	実行環境
R7.01～R7.40	.NET Framework 3.5 SP1

R6/R5 の各レビジョンにおける、開発／実行環境は以下のとおりです。

表　参考：R6/R5 における開発環境

VDS/ASTMAC のリリースおよびレビジョン	開発環境
R6.20 ～R6.30	Visual Studio 2008 SP1 + .NET Framework 2.0 SP1 Visual Studio 2005 SP1 + .NET Framework 2.0 SP1 (Vista, XP 共通)
R6.01 ～R6.10	Visual Studio 2005 SP1 + .NET Framework 1.1 Visual Studio .NET 2003 (XP のみ) + .NET Framework 1.1
R5.40 ～ R5.50	Visual Studio 2005 + .NET Framework 1.1 Visual Studio .NET 2003+ .NET Framework 1.1
R5.01 ～ R5.30	Visual Studio .NET 2003+ .NET Framework 1.1

表　参考：R6/R5 における実行環境

VDS/ASTMAC のリリースおよびレビジョン	実行環境
R6.20 ～R6.30	.NET Framework 3.0 SP1 (Vista) .NET Framework 2.0 SP1(XP)
R5.01 ～R6.10	.NET Framework 1.1

■ 作業概要

R7 における開発／実行環境が R6/R5 における開発／実行環境から変更となる場合は、プロジェクトを新環境に移行します。

注 意

OPC データリンクパッケージ for .NET を、R7.20 以降にリリースアップする場合は、必ず、以前のバージョンを VDS/ASTMAC ソフトウェア媒体の DVD-ROM（NT201AJ）に入っているアンインストールツールを用いてアンインストールし、再インストールしてください。詳細手順は、「OPC データリンクパッケージ for .NET」（IM 34P02H51-01）を参照ください。

2.2.3 VBプロパティリンク機能（R5/R4 標準搭載機能）を使用している場合

Microsoft による Visual Basic 6.0（VB6）のサポート終了のため、開発環境の維持ができません。
VB6 環境で作成された実行プログラムは R7 環境においても動作しますが、開発／改造／保守は行えません。
開発／改造／保守が必要な場合は、新環境への移行が必要です。
新開発環境への移行は、ユーザの責任で行ってください。

■ 必要なアイテム

「2.2.2 OPC データリンクパッケージ for .NET（NT336AJ）を使用している場合」を参照ください。

■ 作業概要

開発環境を Visual Studio 2013 + .NET Framework 3.5 SP1 または Visual Studio 2010 SP1 + .NET Framework 3.5 SP1 に移行し、OPC データリンクパッケージ for .NET を使用して、VB6 で作成したアプリケーションプログラムを再構築します。

2.2.4 カスタムドライバ接続パッケージ（NT341AJ）を使用している場合

開発環境は、Windows XP SP3 上での Visual Basic 6.0 です。VB6 で作成した実行プログラムは Windows XP および Windows 7 の双方で動作しますが、Visual Studio .NET 2003 で作成した実行プログラムは Windows 7 では動作しません。ただし、実行プログラムは Windows の仕様の範囲内での動作となります。
また、VB6 のサポートが終了しているため、改造／保守が必要な場合は、これらの開発環境を維持しておく必要があります。

■ 必要なアイテム

Windows XP および、VB6。

■ 作業概要

VB6 の開発環境で行ってください。

補足

R7.30 以降は、Windows XP に対応しておりません。Windows XP でご利用の場合は、R7.20 にリリースアップしてください。

2.2.5 電力モニタ接続パッケージ（NT366AJ）を使用している場合

電力モニタ接続パッケージは、Windows XP 環境でのみ動作します。
本パッケージのサポート機種は、UPM01/UPM02/UPM03/UZ005/PR201 です。これらの機種を VDS/ASTMAC に接続している場合、R7.20 を使用し、動作環境は、Windows XP を使用してください。
なお、電力モニタ UPM100/UPM101/PR300 との接続は、VDS/ASTMAC 基本ソフトウェアの標準機能で接続可能なので本パッケージは不要です。したがって、これらの機種を接続している場合は、Windows 7 の環境へ移行可能です。

■ 必要なアイテム

なし

■ 作業概要

● 電力モニタ UPM01/UPM02/UPM03/UZ005/PR201 を接続している場合（電力モニタ接続パッケージを使用し VDS/ASTMAC に接続）

Windows 7 環境では、電力モニタ UPM01/UPM02/UPM03/UZ005/PR201 との接続をサポートする「電力モニタ接続パッケージ」は動作しません。R7.20 の動作環境として、Windows XP が必要です。

● 電力モニタ UPM100/UPM101/PR300 を接続している場合（VDS/ASTMAC 基本ソフトウェアによって接続）

VDS/ASTMAC の基本ソフトウェアによって接続されるため、R7 へのリリースアップ作業以外の作業は発生しません。

補足

R7.30 以降は、Windows XP に対応しておりません。Windows XP でご利用の場合は、R7.20 にリリースアップしてください。

2.2.6 Pro-Server接続パッケージ（NT357AJ）を使用している場合

Pro-Server 接続パッケージは、Windows XP 専用です。R7.30 以降では使用できません。
Windows 7 では、代替ソフトウェアへの移行が必要です。

■ 必要なアイテム

表 R7 における Pro-Server 接続パッケージの代替ソフトウェア

VDS/ASTMAC の動作環境（OS）	代替ソフトウェア	
Windows 7	・OPC クライアント機能 OPC サーバ接続パッケージ（NT358AJ）	VDS/ASTMAC オプションパッケージ
	・OPC サーバ機能（*1） Pro-Server with Pro-Studio または Pro-Server EX	デジタル社製
Windows XP	不要（Pro-Server 接続パッケージ 使用可能）	

*1： Pro-Server with Pro-Studio または Pro-Server EX が Windows 7 に対応していることが必要です。デジタル社にお問合せください。

■ 作業概要

Windows 7 では、以下の作業が必要です。

1. データサーバプロジェクトの更新
   リリースノートの指示に従って、データサーバのプロジェクトを更新します。
2. OPC サーバのセットアップ
   VDS/ASTMAC と同一、もしくは別 PC に、「Pro-Server with Pro-Studio」もしくは「Pro-Server EX」をセットアップし、デジタル社製表示器 GP シリーズとの接続設定を行います
3. I/O オブジェクトタイプの変更。
   VDS/ASTMAC のオブジェクトビルダにて、OPC サーバ接続用 I/O オブジェクトを新規作成し、上記 OPC サーバとの接続設定を行います。
   また、Pro-Server 接続用の I/O オブジェクトを削除します。
4. コントロールオブジェクトの変更
   VDS/ASTMAC のオブジェクトビルダにて、Pro-Server 接続用 I/O オブジェクトと接続しデジタル社製表示器のデータを格納するコントロールオブジェクト（タグ）について、I/O 情報の設定を変更します。名前には、上記「3. I/O オブジェクトタイプの変更」で作成した I/O オブジェクトを選択します。
   アドレスは、OPC サーバで規定される ItemID を指定します。ItemID の表記についてはデジタル社の取扱説明書を参照してください。

補足

R7.30 以降は、Windows XP に対応しておりません。Windows XP でご利用の場合は、R7.20 にリリースアップしてください。

2.2.7 操作シールドパッケージ（NT321AJ）を使用している場合

操作シールドパッケージは、Windows XP 専用です。R7.30 以降では使用できません。
Windows 7 では、代替ソフトウェアへ移行してください。

■ 必要なアイテム

操作シールドパッケージのアプリケーション抑制機能（VDS の操作監視環境である VDS HMI クライアントの最前面ウィンドウ指定機能、最背面ウィンドウ指定機能、最大化ウィンドウ指定機能、全画面ウィンドウ指定機能、最大ウィンドウ数指定。）は、VDS Viewer の標準機能としてサポートされています。
これ以外の機能に関しては、株式会社富士通アドバンストエンジニアリング（STARDOM ソリューションパートナー）製『InfoBarrier』での実現を検討ください。

表　R7 における操作シールドパッケージの代替ソフトウェア

VDS/ASTMAC の動作環境（OS）	代替ソフトウェア	
Windows 7	・アプリケーション抑制機能 VDS Viewer	VDS/ASTMAC ソフトウェア媒体 DVD-ROM に同梱
	・システム抑制機能およびデスクトップ抑制機能 InfoBarrier（日本語版のみ）	株式会社富士通アドバンストエンジニアリング製
Windows XP	不要（操作シールドパッケージ 使用可能）	

■ 作業概要

操作シールドパッケージの機能を、「InfoBarrier」へ移行するための移行ガイドとして、以下の TI を用意しています。移行作業の参考としてご使用ください。

「VDS/ASTMAC InfoBarrier 活用ガイド」（TI 34P02H08-04）

補足

R7.30 以降は、Windows XP に対応しておりません。Windows XP でご利用の場合は、R7.20 にリリースアップしてください。

2.2.8 Web監視パッケージ（NT510AJ）を使用している場合

Web 監視パッケージは、Windows XP 専用です。R7.30 以降では使用できません。Windows 7 では、代替ソフトウェアへの移行が必要です。

■ 必要なアイテム

表　R7 における Web 監視パッケージの代替ソフトウェア

VDS/ASTMAC の動作環境（OS）	代替ソフトウェア
Windows 7	VDS（Web 監視機能）

Windows 7 では、Web 監視パッケージの機能は VDS の Web 監視機能で代替してください。
Web 監視パッケージの機能を代替する VDS を、R6/R5 から R7 へリリースアップする VDS/ASTMAC とは別ステーションとして新規に設置することも可能です。この場合、新設 VDS の HMI サーバ機能は、リリースアップした VDS/ASTMAC のデータサーバにアクセスし、他ステーションのタグデータを含む監視画面を VDS Viewer へ配信することが可能です。

■ 作業概要

● 既設が ASTMAC の場合

1. 既設 ASTMAC R6/R5 を R7 にリリースアップします。このとき、OS も Windows 7 に移行します。
2. VDS を新設して、監視画面を作成します。

● 既設が VDS の場合

1. Web 監視パッケージで提供される画面相当を、VDS のグラフィックデザイナで新規作成します。

補足

R7.30 以降は、Windows XP に対応しておりません。Windows XP でご利用の場合は、R7.20 にリリースアップしてください。

2.2.9 メッセージ管理（R5/R4 標準搭載機能）のデータベース接続機能を使用している場合

VDS/ASTMAC R6 以降のメッセージ管理機能でサポートされるロギング先は、メッセージ履歴ファイル、テキストファイル、メッセージプリミティブ（VDS の場合）、アラームサマリ（ASTMAC の場合）です。
R5 でロギング先としてデータベースを指定している場合は、メッセージ履歴ファイルの内容をデータベースのサーバに送信（またはクライアントに直接送信）するプログラムを作成してください。

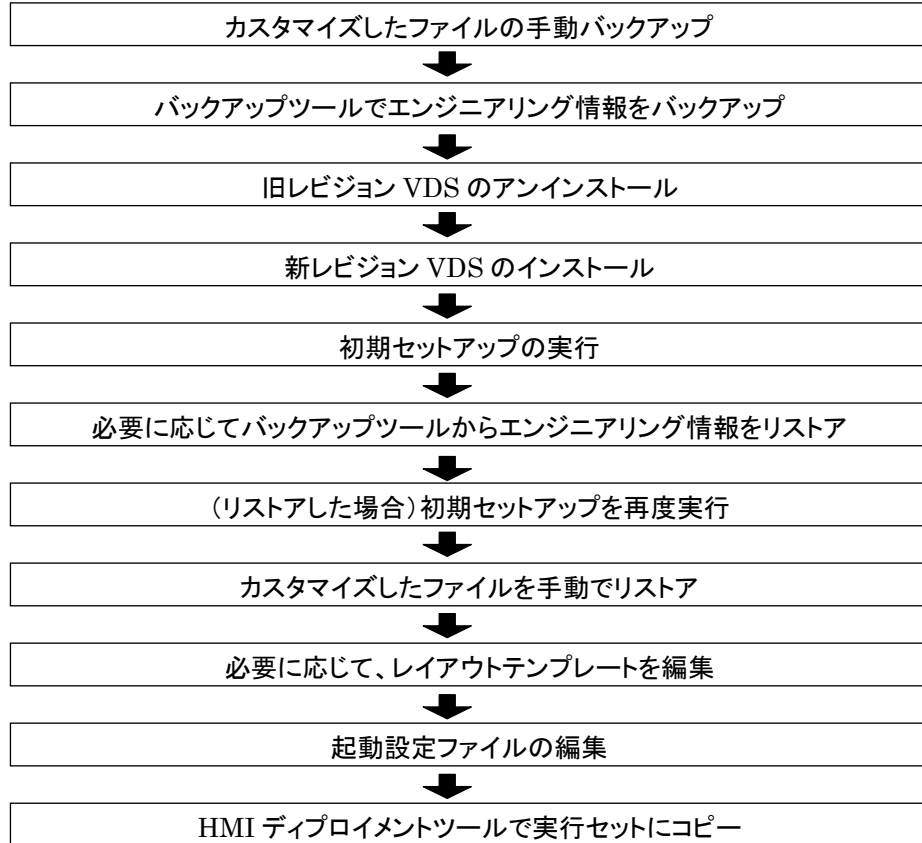
■ 必要なアイテム

ASTMAC グラフィックビルダ（ASTMAC 標準機能）、もしくは、Visual Studio 2013/2010 SP1 などの開発環境。

■ 作業概要

メッセージ履歴ファイルの内容をデータベースのサーバに送信（またはクライアントに直接送信）するプログラムを作成してください。

付録　HMIセットのリリースアップ手順

R6 以前に使っていた HMI セットを R7（VDS Viewer）で使う場合は、次の手順でリリースアップしてください。R7 から起動設定ファイルの編集が追加されています。

項目	概要
カスタマイズしたファイルの手動バックアップ	カスタマイズしているファイルのみを WORK フォルダからコピーしてください。ここでは VDS バックアップツールを使用しません。
新レビジョン VDS のインストール	インストール手順にしたがい PC に新しいレビジョンの VDS をインストールします。
初期セットアップの実行	初期セットアップを実行します。WORK フォルダの既存 HMI セットへの上書きを「はい」とします。
必要に応じてバックアップツールからエンジニアリング情報をリストア	必要に応じて、バックアップツールを使ってエンジニアリング情報をリストアします。
（リストアした場合）初期セットアップを再度実行	エンジニアリング情報をリストアした場合、初期セットアップを再度実行します。WORK フォルダの既存 HMI セットへの上書きを「はい」とします。
カスタマイズしたファイルを手動でリストア	「カスタマイズしたファイルを手動でバックアップ」でコピーしたファイルを、WORK フォルダにコピーしてください。ここでは VDS バックアップツールを使用しません。元のバージョンによってはカスタマイズしたファイルをそのままコピーして戻せません。そのような場合には R7 の新しいファイルを元にカスタマイズをやり直してください。
起動設定ファイルの編集	起動設定ファイルを編集して、初期表示画面等を設定します。
実行セットにコピー	HMI ディプロイメントツールを起動して、「上書き方法」は「常に」を選択し、「コピー対象」は「ファイルの種類を選択する」と「すべて」を選択して、「実行」ボタンを押してください。

　Technical Information　改版履歴

資料名称：　VDS/ASTMAC R7 移行ガイド
資料番号：　TI 34P02V06-01

'11 年 3 月 04 日／初版／R7.01 以降
・新規発行

'13 年 7 月 25 日／2 版／R7.20 以降
・Visual Studio 2012 に対応
・OPC データリンクパッケージ for .NET の注意を追記
・誤記訂正

'14 年 3 月 31 日／3 版／R7.30 以降
・Windows 7 64bit に対応
・Visual Studio 2013 に対応
・Excel 2013 に対応
・Windows XP の対応を終了
・誤記訂正

'15 年 6 月 30 日／4 版／R7.40 以降*
・Java 8 に対応

*：Technical Information 記載内容と対応しているソフトウェアのリリース番号。対応する範囲は次の改訂版が発行されるまで。

■お問い合わせについて
本書の内容に関するご質問は、下記メールアドレスにてお願いいたします。
問い合わせメールアドレス：stardom_info@cs.jp.yokogawa.com

■著作者　横河電機株式会社
■発行者　横河電機株式会社
〒180-8750　東京都武蔵野市中町 2-9-32